

めぐみイエス・キリスト教会

2025年8月3日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第769号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌315「主の御手に頼る日は」 p. 499

【交読文】 No.57 コリント人への手紙Ⅰ 13章 p. 925

【賛美Ⅱ】 新聖歌21「輝く日を仰ぐ時」 p. 28

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「み言葉に帰ろう」

【聖書朗読】 ルカの福音書10章1節～12節 (p. 134上段)

【礼拝説教】 《神の国は近づいている》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所

10:1 その後、主は別に七十二人を指名して、ご自分が行くつもり
のすべての町や場所に、先に二人ずつ遣わされた。

10:2 そして彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、
収穫の主は、ご自分の収穫のために働き手を送ってくださるよう
に祈りなさい。

10:3 さあ、行きなさい。いいですか。わたしがあなたがたを遣わすの
は、狼の中に子羊を送り出すようなものです。

10:4 財布も袋も持たず、履き物もはかずに行きなさい。道でだれに
もあいさつしてはいけません。

10:5 どの家に入っても、まず、『この家に平安があるように』と言いな

さい。

10:6 そこに平安の子がいたら、あなたがたの平安は、その人の上にとどまります。いなければ、その平安はあなたがたに返って来ます。

10:7 その家にとどまり、出される物を食べたり飲んだりしなさい。働く者が報酬を受けるのは当然だからです。家から家へと渡り歩いてはいけません。

10:8 どの町に入っても、人々があなたがたを受け入れてくれたら、出された物を食べなさい。

10:9 そして、その町の病人を癒やし、彼らに『神の国があなたがたの近くに来ている』と言いなさい。

10:10 しかし、どの町であれ、人々があなたがたを受け入れないなら、大通りに出て言いなさい。

10:11 『私たちは、足に付いたこの町のちりさえ、おまえたちに払い落として行く。しかし、神の国が近づいたことは知っておきなさい。』

10:12 あなたがたに言います。その日には、ソドムのほうが、その町よりもさばきに耐えやすいのです。」

●ポイント1.多くの弟子たちの取った行動とは？

※ヨハネの福音書6章60節・66節～68節「私の血と肉」(新約p.191)

6:60 これを聞いて、弟子たちのうちの多くの者が言った。「これはひどい話だ。だれが聞いていられるだろうか。」

6:66 こういうわけで、弟子たちのうちの多くの者が離れ去り、もはやイエスとともに歩もうとはしなくなった。

6:67 それで、イエスは十二人に、「あなたがたも離れて行きたいのですか」と言われた。

6:68 すると、シモン・ペテロが答えた。「主よ、私たちはだれの所に行けるでしょうか。あなたは、永遠の命の言葉を持っておられます。」

●ポイント2.「神の国」とは？

※ルカの福音書17章20節～21節「ただ中に」(新約p.153下段左側)

◎先週のメッセージ【私に従って来なさい】

《さて、主イエスがエルサレムを目指していた時のことです。ある人が言いました。「あなたがどこに行かれても、私はついて行きます。」

かつて、ガリラヤ湖畔において、ペテロとアンデレは、「私について来なさい」と言う主の言葉に従ったのです。実は、雲泥の差の違いがあるのです。それは、人間からの願いではなく、主からの願いと言う点です。最後の晩餐において、主はその事を明らかにされました。「あなたがたが私を選んだのではなく、私があなたがたを選び、あなたがたを任命しました。」と。さて、主イエスは別の人に、「私に従って来なさい」と言われました。しかし、その人はこう言います。「まず行って、父を葬ることをお許し下さい。」これは、親孝行を思わせるようですが、実は断りの返事なのです。彼の父親は、まだ健全なのです。

その父親の葬儀をした後に、主について行くと言うわけです。また、別の人、主イエスに言いました。「主よ、あなたに従います。ただ、まず自分の家の者たちに、別れを告げることをお許し下さい。」

もちろん、家族に対して、自分自身の決断を伝えることは当然であり、また家族への配慮とも言えるでしょう。しかし、主は言われます。「鋤に手をかけてから後ろを見る者はだれも、神の国にふさわしくありません。」と。「これは二心のことです」と尾山先生は解釈しています。

神の国を求め、それと同時にこの世での成功や富を求めることは、出来ないと言うことです。二足のわらじは履くことは出来ないのです。

ガリラヤ湖畔において、主イエスが復活されたお姿を三度目に現わされた時に、ペテロに、主イエスは言われました。「あなたは、私に従いなさい」と。私たちは人と比較する必要は全くないのです。大切な事は、私も、そしてあなたも、最後まで主に従うことなのです。》

◎お知らせ

※次回、8月10日第Ⅱ主日礼拝は、平山廣恵先生が来られ、礼拝メッセージと宣教報告をして下さいます。終了後、愛餐会を持ちます。